



義太夫協会会報  
第92号

平成23年1月1日

社団法人 義太夫協会 発行  
〒104-0045 東京都中央区築地  
4-1-1 東劇ビル17F  
Tel 03(3541)5471  
Fax 03(3546)2334  
<http://www.gidayu.or.jp>

# 会長挨拶

波多一索

新春を迎え、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

本年は4月より、女流義太夫定例公演の会場が、国立演芸場とお江戸日本橋亭の2か所の隔月公演となります。ご不便をおかけしますが、何卒相変わりがませずご来駕賜りますようお願い申し上げます。

さて以前のことになりますが、加藤秀俊先生が趣味について書かれた一文を思い出し、ご紹介させて頂くことにしました。

イギリスでは、仕事のあとのパーティーなどで必ずでる言葉は「あなたの趣味はなんですか」と言う質問だそうです。ところが、日

本の優秀なサラリーマンは途端に口ごもり「えーとゴルフでも、マージャンでも違うし」と皆さん考えこんでしまうそうです。

イギリスでは子供の頃から「昆虫採集」「植物観察」などする子が多く、切手集めに熱中している男の子などは、日曜ごとに近所の家庭を訪問して古切手を集めて歩くそうです。一般に西洋人は、「趣味」を人生における当然な権利と考えていて、趣味抜きの人生など考えられないそうです。

あるダリアつくりのイギリスの老人は、自宅に庭がないので、近所の市役所の管轄の公園の一部を借り受けてそこにダリアを育て、この頃ではその公園が近隣でも指折りのダリア園になり、休日にはそれを見学に大勢の人が集まって来るほどだそうです。それほどまでに西洋人にとっては趣味は大切なものであり、大袈裟に言えば趣味を持たない人間は、どこかおかしいのではと思われる様です。

ある銀行員などは現役のころから国中でもサボテンの有名なコレクターでしたが、やが

て定年を迎えると何千点だかの有名なサボテンのコレクションをさっさと売りに出し、その売れたお金でよりサボテンの気候に適したアフリカの土地に引越しをし、余生を楽しく過ごしておられるそうです。考えようによっては、彼にとっては職業はあくまでも生活の手段であって、むしろ大切なのは趣味(ホビー)だったのでないかと思えてしまいます。

ひるがえって日本ではどうでしょうか。ゴルフ、マージャンなど、せいぜいどれも手ずさびで、一生にわたる趣味とは言えない気がします。ビジネスマンでも、仕事の帰りに義太夫教室に通えるようにならなければ文化国家とは言えないのではないのでしょうか。

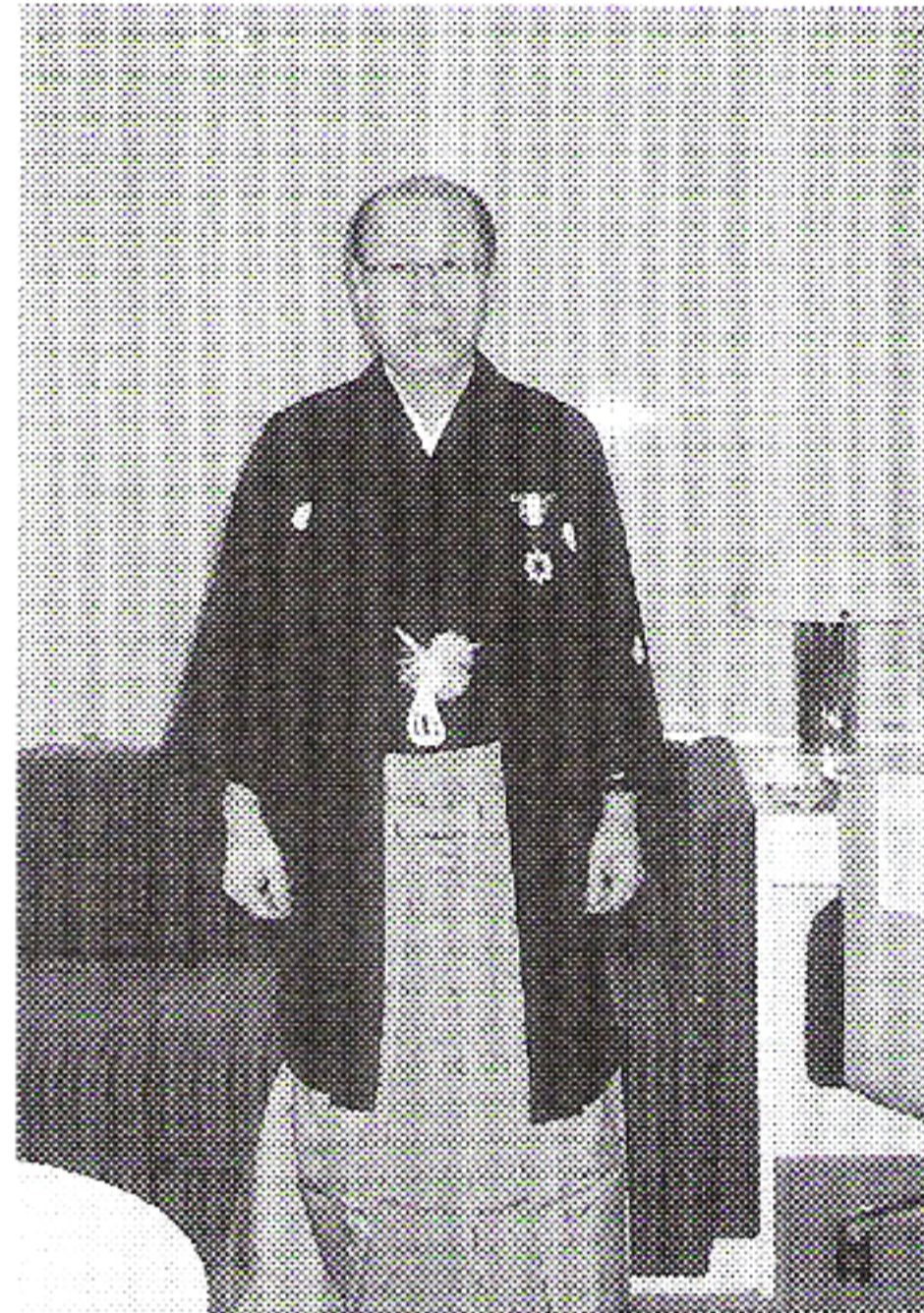
と言う訳で、今年も体の許す限り芝居や女流義太夫の会に通いたいと思っております。



はた いっさく

昭和8年東京生まれ。(財)ビクター伝統文化振興財団理事長を経て、現在、(社)義太夫協会会長、(社)日本小唄連盟副会長、(社)東京都民踊連盟会長など。伝統芸能の研究と保存活動を続けている。

## 鶴澤正一郎師に旭日双光章



昨年秋の叙勲で鶴澤正一郎師が旭日双光章を受章いたしました。  
歌舞伎の舞台で三味線を弾き続けて四十年。岡山県出身。17歳で文楽の名人、四代目鶴澤清六に入門、清好を名のります。師匠清六没後、文楽座を退座しましたが、その後歌舞伎界からの要請で竹本の三味線弾きとなりました。現在79歳。現役最年長の竹本三味線弾きとして舞台に立ち、また後進の指導にもあたっています。

## 協会事務所の変遷

竹本綾太夫

此度び東劇ビル17階に素晴らしい事務所が設けられた。一寸、身分不相応な気がするが、ともかくそれに見合うような活躍と発展をしなければならぬだろう。

先ず、これ迄数々の場所を提供して下さい。松竹株式会社は御礼を申し上げたい。

この事務所の変遷は、法人の歴史と軌を同じくするので、順を追って記してみたい。

法人化の条件の一つに「事務所は個人宅ではなく、職員が居ること」があった。本牧亭様のご好意に依り、亭内にスチール机を入れ、亭の若い女性職員に兼任してもらい、事務所を設けた。昭和45年6月、社団法人の認可が下り、吉川英史会長・豊澤仙廣副会長の新体制で発足した。

- (1) 依って事務所第1号は本牧亭内である。
- (2) 昭和46年12月、本牧亭改築に伴い、銀座三丁目真光ビルの「民族芸能を守る会」のご好意に依り、同居させていただく。
- (3) 昭和49年1月、新橋演舞場別館に事務所を設けた。演舞場の岡副専務のお陰で、約五坪の冷暖房完備・現在の番号の専用電話・専任職員・最新事務機器等、夢のような事務所が誕生した。松竹城戸社長と賃貸契約を交わしたのも初めてであった。
- (4) 昭和54年8月、演舞場改築に伴い、銀座六丁目の長唄協会事務所内に一時移転した。
- (5) 昭和54年10月、佐佐木監事の肝入りにより、銀座八丁目松本ビルに移転した。昭和55年

重要無形文化財総合指定「義太夫節保存会」結成。保存会は協会内に置かれた。

- (6) 昭和57年6月、改築成った新橋演舞場B2に再移転。現岡副社長の御好意に依り、一室を用意して下さい。こゝでは吉川会長のもと、様々の事業を行い、大いに発展した。昭和58年、大黒柱の仙廣副会長が勇退され、竹本朝重・竹本駒之助のお二人が副会長となった。昭和61年、吉川会長勇退、田辺新会長となる。平成7年、田辺会長勇退、景山新会長となる。この両会長の時期は、バブル崩壊の影響を受けた多難の時に、これをよく支えて下さった。

(7) 平成8年11月、築地一丁目松竹会館(旧松竹歌劇団稽古場)に移転。演舞場様の都合に依り、やむなくのことであった。この窮地を、松竹永山会長が救って下さった。

(8) 平成10年10月、銀座四丁目松竹倶楽部内に移る。松竹会館改築の為で、やはり永山会長のお声がかかりに依る。平成17年景山会長勇退、現波多新会長となる。

(9) 平成20年12月、築地一丁目松竹会館別館に移転。これは文明堂ビルの改築に依る。

(10) 平成22年10月、現在の築地四丁目東劇ビルに移転。

法人化より40年間に10回の移転。(2)から(10)迄は、歌舞伎座から半径300メートル以内で往き来している。番地が変わっても、大切な電話が不変なのがよい。

ともかく、多くの方々のご好意で協会は成り立っている。常に感謝々々である。

### NHK「芸能花舞台」収録後記

今回の「芸能花舞台」は「女流義太夫の魅力」と題し、竹本駒之助師による「阿古屋」(33分)と若手の皆さんによる娘義太夫「鷺娘」(5分)をお楽しみいただきます。

収録はまず眼目の「阿古屋」からです。三曲には歌舞伎「阿古屋」にゆかりの深い川瀬家の後継者・川瀬露秋さんをお迎えしました。駒之助師による磐石の語りに加え、津賀寿・三寿々お二人の撥捌き(と掛け声)も鮮やかに、収録は無事終了。次は「鷺娘」です。

学生の頃に本牧亭で素浄瑠璃を伺って以来、その魅力を好事家のみならず、多くの視聴者に知って貰いたいと思っていました。

そこで今回は八月の定例公演でも観客動員に貢献した「娘義太夫」の態を拝借することにしたのですが…。

メンバーの中には果たして日本髪が結えるのか?という短髪の方もいらして、髪結さんに大苦心をさせてしまいました(神楽坂の齋藤様、有難うございました!)

舞台面については、解説をお願いした水野悠子さんから沢山の資料とご意見をいただき、考証の上、寄席風のセットにしました。

三丁三枚、芸者衆の様に美しい六人娘によるカメラリハーサルの時です。太夫三人が何故か揃って下手方向を凝視しながら語っているではありませんか。ウチのスタッフが何か不審な事でも?と思ったら、そこには指揮者

よろしく大車輪の身振りで指示を出していらっしやる駒之助師が…。

水野さんも短い解説時間の中で上手くお話をまとめて下さり(若き駒之助師の可愛らしい写真も登場します!）、感謝感謝です。

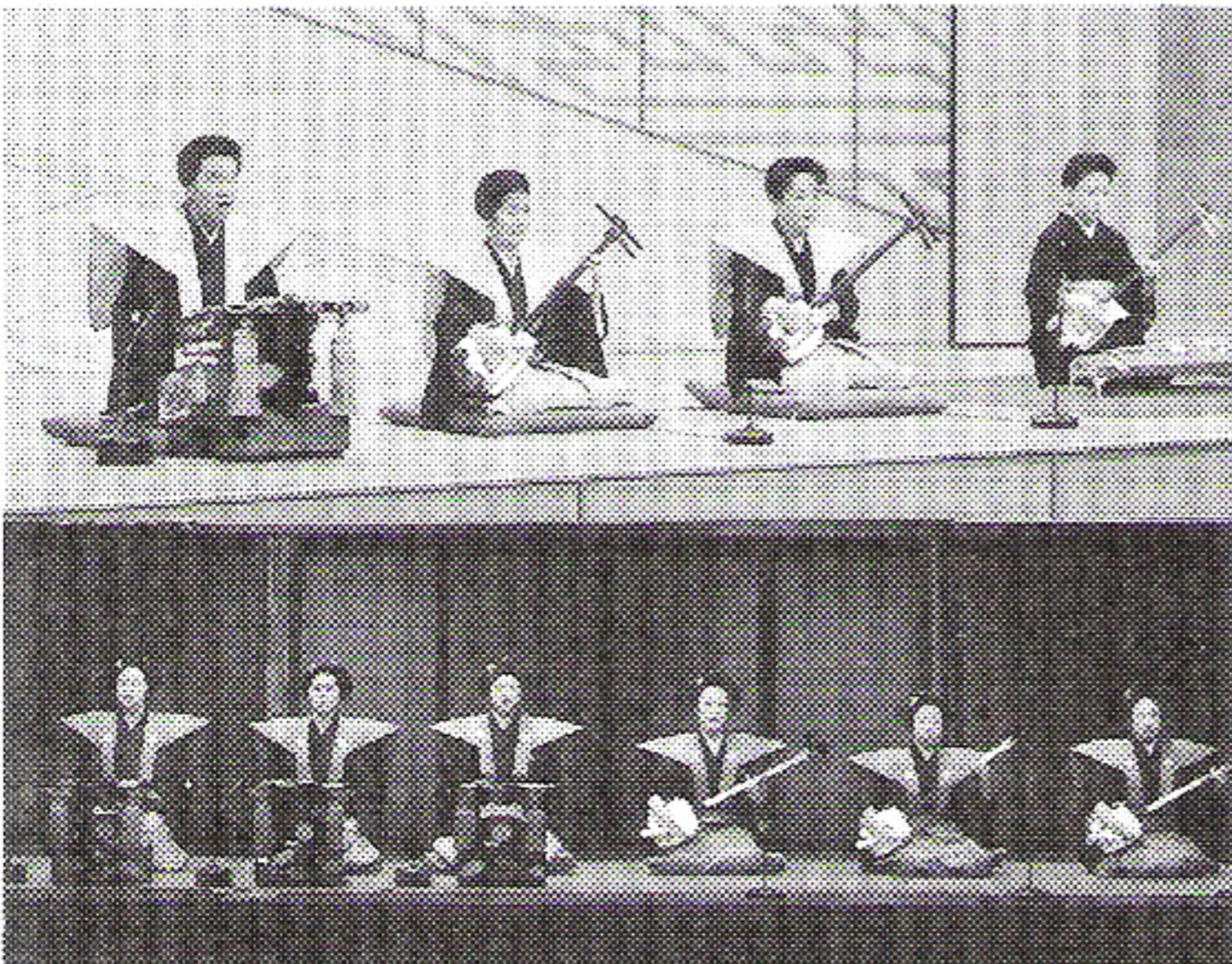
いずれにしろ駒之助師、並びに義太夫協会様のご助力がなければ成立しなかった企画です。師匠を始め関係各位の皆様に改めて御礼申し上げます。どうぞ高覧下さいませ。

#### 〔放送予定〕

1月20日(木)午後2時から 教育テレビ  
1月23日(日)午後11時30分から教育テレビ

NHK 音楽・伝統芸能番組部  
古典芸能番組班 チーフ・プロデューサー

早川 竜彦



### ぎだゆう座初春公演

1月8日(土) 開場 午後1時

開演 午後1時半  
入場料 千五百円

寿式三番叟 越京・三寿々他

触れ太鼓 財団法人日本相撲協会

相撲甚句 呼び出し三郎他

壺坂観音霊験記——山の段——

越孝・駒治・津賀榮

会場前にて清酒の振る舞いをさせていただきます。

皆様のご来場をお待ち申し上げております。



## シリーズ人物像

(正会員への取材のコーナーです)

## 竹本駒之助 編 第二回

中学二年の頃でしたか、大阪から女流の義太夫が十人くらい淡路にいらしたのです。三蝶さんや、昇之助さん、雛昇さん、あと春華さんなどでもいらしていたと思います。三味線弾きは仙平お師匠さんや、雛代さん、東重さん、などがいらしていました。

母が義太夫好きでしたから、旅館ではなく、私の家を宿にしていただいておりました関係上、興行の最初に私を出していただきました。島之助さんが三味線を弾いてくれました。泊めてもらっている義理があったからでしょう、皆様早い時期から私の浄瑠璃を聞きに来て下さいましたが、終わったら、どうも誰かの弟子にして私も一緒に連れて帰ろう、という話になったようなのです。

終戦後という厳しい時期でしたから、当時は食べる物にも困っていた時代でした。家族があればなおさらです。そんな状況下で、たまたま春駒が大阪の泉尾に、一間と玄関というような間取りでしたが、家がありました。他の皆様に家族がいらして、とても内弟子を置ける状況ではない方々ばかりの中で、春駒には家族がいなかったものですか、皆でいろいろ相談した結果、そこに入れてみよう。多少うるさい人だから、お弟子さんが続いたことがないような難しい人だけれど、他に

入れるにも現実的に厳しいからそこにしよう、ということになったようです。

私の父は厳格な育ちでして、姉に対しては厳しく接しておりましたが、私はどうも逃げ足が速かったので怒ろうにも怒れなかったようです。私はまだ当時、他人から押さえつけられたという経験がありませんでした。

稽古でも、家が宿だということ、言わば御客様扱いだったからでしょう、怒られるということがなかったです。ましてや内弟子というのが何なのか、私には、さっぱり意味が分かっておりませんでした。

中学校では、義太夫が大好きだった校長先生が、私の大阪行きが決まったことを大変喜んで下さいました。そして学校の講堂に芝居と同じように舞台を組んで、全校生徒を集めて、皆に私の義太夫を聴かせたのです。その時は人形も入っていました。

淡路には、義太夫発祥の経緯をたどった芝居があります。義太夫を主人公として、竹本義太夫になるまで、つまり彼の生い立ちをストーリーにした芝居です。それを学芸会でやったりしていました。その芝居の一役を演じたこともありません。そんな学校でしたし、そんな地域で育ちました。

市の中に六之丞と源之丞の二つの人形芝居の座元がありました。六之丞さんの方が人形を沢山持っていて、大阪の女流の義太夫の方々と九州や四国などの巡業に出ていました。私は当時まだ学校に通っており、内弟子に入っていない時分であったにもかかわらず、そ

のメンバーに入れられました。

困りましたよ。一度行くと一ヶ月も留守をしているものだから、学校に戻ってきて、いつの間にか授業がちゃんぶんかんぶんになって、当然勉強が遅れてしまいます。

巡業では掛合で役をいただいたりしましたが、大阪の浄瑠璃と阿波の浄瑠璃とは違うから、大阪の語り方に直されるんです。そこにも違和感を憶えましたし。私はどうしても気が進まなかったのですが、否が応でも連れられるまま、やがて時は進み、三年生になりました。

夏休みにも入った頃でしたか、いつまでも行ったり来たりではいけない、ということでもう後期しか残っていないし、卒業証書は出すから心配ないと言われたから、と母に言われ、結局大阪に行くことになりました。私は、そんな筈はないと思うのですが(笑)。抜擢されて大阪に修業に出るなど、東大に入ったようなものだから、と大変喜ばれました。

当時春駒は六十歳。でも今でこそ、六十歳の方は皆様お若いですが、当時、しかも中学生にとっては、すごいお婆さんでしたし、どうにもやはり、怖かったですよ。

淡路で私は何不自由なく、家族の中で伸びと育っていましたから、お婆さんとのたった二人の質素な暮らしは不安で心細く、自分分はこれからどうなってしまうのだろうか、毎日不安でたまりませんでした。

(続く)

ほんに気がメリヤス(九杯目)

鶴澤慎治

この数回「戻る戻る」と言いながら、本当にどこに行くか分らない連載になってしまった「メリヤス」ではありません。

芝居でのメリヤス演奏において、俳優さんの動き、あるいは台詞の切れ目など、何かしらのきっかけをもって、曲の最初に戻って演奏することを「付直し」と申しますが、今回の「メリヤス」、困ったら『竹本メリヤス集成』に付直し、普段の舞台での苦労話でつなぐ、というやり方で切り抜けさせて頂きました。で、その『竹本メリヤス集成』での私の仕事、そもそもは竹本で使うメリヤスに地歌由来のものが多くことから、その調査をするというのがスタート地点でした。

そもそも義太夫節は劇場音楽にして語り物、地歌は非劇場音楽で歌い物ということで、同じ三味線を使う音楽でも、その内容、演奏者、演奏場所、またそれらを楽しむ人々もかなり違っているわけですが、いわゆる本行の義太夫節と地歌の間には、次の2点に相互の交流が認められることは以前も少し触れております。

- 1 義太夫節における地歌曲の挿入、引用。
- 2 地歌における「浄瑠璃物」と呼ばれる曲の内、義太夫節の詞章を典拠とする曲の存在

無論、こうした表面的なこと以上の影響があるのはいうまでもなく、人形浄瑠璃全盛期の道頓堀界限でもはやされた音楽が人形浄瑠璃に、そして人形浄瑠璃の演目が歌舞伎に移入された頃に流行っていた音楽がその音楽的演出に、それぞれ多大な影響を与えたことは想像に難くありません。

地歌が歌舞伎竹本のメリヤスに取り入れられた経緯についての私見を、『メリヤス集成』では次のように小難しく書きました。

つまるどころ、地歌を原拠とするメリヤスを最初に歌舞伎舞台で演奏したのは当時の竹本の三味線演奏者であり、彼らが地歌を知り得た方法は、

○どこか(遊里・宴席・お浚い会・稽古場など)で聞いて覚えた

○その曲を直接その伝承者である盲人音楽家、あるいはその曲に習熟している第三者(すでに地歌を利用していた劇場の演奏者、地歌に明るい俳優、遊里の芸妓など)に習った

の二つの場合に集約される。(国立劇場養成課『竹本メリヤス集成』解説書より)

早い話が「そこ何か音ないの？」と促された当時の竹本の三味線弾きが、とっさに覚えていた音楽を弾いた、それが地歌だった：ということじゃないかと(笑)

こちら辺は私の勝手な想像ですが、メリヤ

スに取り入れられている地歌を作曲した方の多くは、道頓堀界限の遊里を活動場所にしていたことも、あながち無関係ではないと思っています。(そりゃご本人方に聞いた訳じゃありませんけれども)

ここで、メリヤスの曲名、ということ余談を一つ。

昨11月国立劇場公演『国性爺合戦』平戸の浜の場において補曲を担当しました際、和藤内が平戸の浜から唐に向けて出船する場面でメリヤスをこしらえることになりました。

とりあえず思いつきで中国をイメージできそうな手を一晩で考えて、和藤内を演じる團十郎丈にお聴き頂いたところ「替手を入れられないか」とのご注文でしたので、ツレを入れて二声部の曲にしましたら、まあそれなりに映る感じの響きが得られました、舞台で一緒にしていた某太夫さんが「小池メリ」と命名して下さいました。

なぜ小池かという点、中華風↓ラーメンどんぶりの柄(雷文)↓ラーメンといえればオバQの小池さん：というかけなのですが、唐へ渡る大海原にこぎ出すのに小池はまずいだろ、じゃ胡行ならどうだ：などという馬鹿話をする内にまたひと月：

それでも、百年もしたら、こんな馬鹿話も研究調査の対象になるかも：などという下らない妄想たくましく、百年後を見据えて？日々の舞台を勤める次第です。

定例公演報告

昨年は八月、九月と連続してゲストをお迎えしての特別公演を行いました。その模様をお届けいたします。

・八月公演（八月三十日）よみがえる娘義太夫

『二人 禿』綾一・京之助・弥々・寛也  
お話・松井今朝子（作家）

『木遣り音頭』駒佳（初舞台）・津賀花  
『野崎村』駒之助・綾之助・土佐子・

越孝・土佐恵・津賀寿・駒治・三寿々・  
津賀榮・賀寿・弥吉・津賀花

別頁でも特集しておりますが、著書「星と輝き花と咲き」で、娘義太夫の大スター・初代竹本綾之助を主人公として描かれた松井今朝子さんが、学生時代に義太夫の稽古をされ、本牧亭で発表会に出られたエピソードなども絡め、娘義太夫のお話をして下さいました。



松井今朝子氏

また今回は、明治から大正にかけて大流行した娘義太夫の風俗をよみがえらせるという趣向で、若手が日本髪に簪をさし演奏。大内弘子さんデザインの花やかなチラシの効果もあり、前売り完売の人気公演となりました。

・九月公演（九月二十一日）  
お話・橋本 治（作家）

『伽羅先代萩』御殿（政岡忠義）  
駒之助・綾之助・土佐子・津賀寿

一昨年に引き続き、古典芸能に造詣の深い作家の橋本治さんの、一味違う角度からの解説で、客席も大いに賑わいました。

「お客さまの感想より」

「江戸時代のキャリアウーマンたちの闘い」を、橋本治さんのお話と駒之助師匠の語りで堪能いたしました。政岡が「忠義のために子どもを殺す女」ではなく、「不器用なので仕事に集中しすぎて、子どもを巻き込んだ悲劇」と読むと…という橋本さんの指摘。いつもな



初舞台の竹本駒佳

がら、遠いところにあった古典芸能が、今の私たちに通じる物語として立ち上がってきた。

「大事な会議の日に限って子どもが熱を出す。いつも大丈夫だから今日も平気だろう」と思っていたら重病に…といった、日常の延長に起こった悲劇なんですね。



橋本 治氏



「伽羅先代萩」  
左より土佐子・綾之助・駒之助・津賀寿

書評「星と輝き花と咲き」

初代竹本綾之助を主人公とした小説が昨年7月に出版されました。直木賞作家・松井今朝子著「星と輝き花と咲き」(講談社刊)です。出版時に産経新聞に掲載された鶴澤寛也による書評をご紹介します。未読の方はこの機会に是非お手にとってみて下さい。

■明治の元祖アイドル物語

明治時代、元祖アイドルともいうべき女性のスーパースターがいた!その名も初代・竹本綾之助(あやのすけ)、女流義太夫の語り手です。

女流義太夫というのは、演者が男性のみの文楽で使われる音曲の義太夫節を女性だけで演奏する芸能で、二五〇年ほどの歴史があり現在でも活発に活動しています。

初代・綾之助は天性の声や節回しの上に、歌うのではなく心を語るといふ義太夫節の本質を幼い頃(ころ)から身につけ、一世を風靡(ふうび)しました。しかも男装の美少女ときていて、宮様や財界の大物から学生や少女にまで幅広い人気があり、熱狂的なファン達が行く先々を追い回して、それが現在も使われる「追っかけ」の語源になったというほど。また電車の中吊(づ)り広告よろしく、真打披露公演の錦絵が馬車鉄道に貼(は)られたそうです。

本書は史実をからめつつ、そこは著者のこと、博識と想像力を縦横に駆使して、女芸人の一代記というだけでなく、それは読み応えのある一人の女の人生が描かれています。

大阪の職人の子として生を受け、男の子相手に遊ぶやんちゃな女の子が、のちにステージママとなる芸好きな叔母の養女となり、アマチュアながら天才と呼ばれた子供時代。その後の東京移住、師匠となる竹本綾瀬太夫との出会い、ぜひプロにと強く勧められ破格の扱いで真打となってからの喜びや苦悩。

色気だけがないと言われていた娘時代の一世一代の恋と別れ、そしてガリリー小説顔負けの感動の再会から養母の急死、懐妊、周囲の反対を押し切った引退と、もう息つく間もなく物語は進んでいきます。

著者は、名だたる文楽の師匠方が義太夫の出稽古(でげいこ)にいらしていた家に育ち、学生時代はご自身も稽古をされたとか。どうりで義太夫節についての描写も、とても丁寧かつ説明しすぎず、実にすんなり物語に溶けこんでいます。

そしてそのことが、小説の魅力を幾重にも増していることは間違いありません。猛暑をしばし忘れさせてくれるおもしろさ。おすすめです。

(産経新聞2010.8.8より転載)

協会の動き

22年7月より  
23年1月まで

7月21日 女流義太夫演奏会

「夏祭浪花鑑」ほか

於国立演芸場

7月22日 教員免許状更新講習

於国立劇場

7月22日 全日本社会貢献機構助成金贈呈式

於ウエスティンホテル東京

7月31日 義太夫教室第63期初級閉講式

於豊川稲荷文化会館

8月1・2日 ぎだゆう座二日間

於上野広小路亭

8月6日 日本音楽大集合

於札幌市教育文化会館

8月6日 ほり川ミニコンサート 於ほり川

8月20日 第8回たつみ会 於上野広小路亭

8月20日 邦楽ワンダーランド

8月21日 前夜祭ライブ 於水天宮ピット

8月21日 一日体験教室

於豊川稲荷文化会館

8月22日 邦楽ワンダーランド

ミニコンサート・ワークショップ

於水天宮ピット

8月25日 常務理事会

8月28日 一日体験教室 於協会事務所

於豊川稲荷文化会館

- 8月30日 女流義太夫演奏会 若手勉強会  
よみがえる娘義太夫 於国立演芸場
- 9月1・2日「じょぎ」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 9月4日 義太夫教室第63期中級開講  
於豊川稲荷文化会館
- 9月9日～9月29日 車人形ロシア公演出演  
於エカテリンブルク人形劇場、オムスク・アル  
レキン人形劇場、ヤロスラブリ・ボルコフドラマ  
劇場、ウラジミールドラマ劇場、モスクワ芸術  
座付属演劇大学
- 9月10日 本牧亭を聴く会その三  
於M A K O T O シアター
- 9月21日 女流義太夫演奏会  
「伽羅先代萩」 於国立演芸場
- 9月23日 事務所引越
- 9月29日 竹本土佐恵の会  
於深川江戸資料館
- 10月1・2日「ぎだゆう座」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 10月4日～8日 乙女文楽学校公演出演  
於福島市平野小学校・平田村小平中学校  
小野町飯豊小学校・いわき市高久小学校  
田村町瀬川小学校
- 10月7日 日本芸術文化振興基金説明会  
於日本青年館
- 10月15日 邦楽演奏会番組編成会議  
於古曲会事務所
- 10月16日 第八回京の会 於自由学園明日館
- 10月20日 編集部会 於寛也稽古場
- 10月21日 女流義太夫演奏会  
「新口村」ほか 於国立演芸場
- 10月26～29日 乙女文楽学校公演出演  
於栃木県壬生町藤井小学校・白河市東中  
学校・須賀川市大森小学校 さいたま  
市与野南小学校
- 10月31日 祖先祭 於両国回向院
- 11月1・2日「じょぎ」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 11月3日 朝重さんを偲ぶ会  
於セルリアン能楽堂
- 11月11日 おとこたちよ！平家の世界を  
よみ、語る 於内幸町ホール
- 11月13日 まるごと一段 於木馬亭
- 11月20日 第九十三回大日本素義会  
於鳥越神社白鳥会館
- 11月24日 女流義太夫演奏会  
「花雲佐倉曙」ほか 於国立演芸場
- 11月29日 編集会議 於協会事務所
- 12月1・2日「ぎだゆう座」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 12月16日 女流義太夫演奏会障害者の為の  
特別公演「仮名手本忠臣蔵」  
於国立演芸場
- 1月1日 会報92号発行
- 〔寄付・寄贈〕  
寄贈品 竹本連中三味線方 上がり糸  
寄付 大日本素義会様 三万円  
出月清人様 五万円

**おしらせ**  
平成23(2011)年4月より、女流義太夫  
定例公演の会場が国立演芸場とお江戸日本  
橋亭の二箇所になります

ひと月おきで会場が変わるため少々ややこ  
しく、お客様にはご迷惑をおかけし申し訳ご  
ざいませませんが、どうぞ相変わりがませぬ  
お引き立てのほど、よろしくお願い申し上げ  
ます。

年 月 日	曜日	国立劇場 演芸場	お江戸 日本橋亭
平成23年4月21日	木	○	
5月17日	火		○
6月22日	水	○	
7月15日	金		○
8月29日	月	○	
9月20日	火		○
10月24日	月	○	
11月16日	水		○
12月19日	月	○	

☆国立劇場 千代田区隼町四一  
03-3265-7411  
東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅

☆お江戸日本橋亭 中央区日本橋本町三一六  
03-3245-1278  
東京メトロ銀座線 三越前駅